

仕事と介護の両立に向けての 支援・対策のために

—勤労者世帯における仕事と介護の両立に向けてのアンケート調査—

2014年3月

公益社団法人 京都勤労者学園

はじめに

公益社団法人京都勤労者学園は、今年度の調査活動として、京都府内労働者を対象に、「仕事と介護の両立に向けての支援・対策」について実態と意識の調査を実施しました。これは、当学園が京都府の援助を受けて毎年、連合京都、京都総評をはじめ府内の労働組合の協力を得て、傘下労働組合員を中心にアンケート用紙を配布し行っている調査活動事業です。

今年度の調査活動のテーマを「勤労者世帯における仕事と介護の両立」のためのどのような支援や対策が求められているか、に設定しその実態と意識をアンケートによって調査したものです。

この冊子はこの結果を集計・分析したもので、関係諸団体、労働組合での活用を期待するものです。なお、集計・分析はNPO法人京都社会労働問題研究所の協力を得て行いました。

調査結果の概要

先に発表された「平成 24 年度就業構造基本調査」（総務省）によれば、働く介護者は、291 万人（男性 131 万人、女性 160 万人）、その中心は 40 代、50 代が占めます。団塊の世代の高齢化による要介護認定者のさらなる増加が予測されるなか、その子世代である 40 代、50 代（団塊ジュニア）を中心として、介護と仕事の両立が大きな社会課題として浮上しています。しかし、働く介護者を支える社会的環境が十分整っているとは言い難い現状にあります。その帰結として、介護離職が増加の一途をたどっています。同調査によれば、過去 1 年間（2011 年 10 月～2012 年 9 月）での介護・看護を理由とする離職者は 10 万 1 千人、過去 5 年間（2007 年 10 月～2012 年 9 月）では 48 万 7 千人にのぼります。

「大介護時代」（樋口恵子、2012 年）のサバイバル戦略において、介護と仕事の両立の実現は重要な試金石となります。今回の調査から、どのような現状と課題が見えてきたでしょうか？

今回の調査結果の大きな特徴は、今回の調査回答者が、団塊ジュニアよりも少し若い年代層（30 代、40 代）が中心であるにもかかわらず、3 割の世帯において、これまで介護を抱えていたあるいは現在抱えているという家族介護の実態です。この中には、複数の要介護者を抱える家族もいました。しかも、回答した男性の 8 人に 1 人（12.5%）、女性の 5 人に 1 人（21.3%）が、自らが主たる介護者として介護責任を引き受けながら仕事を続けています。

主たる介護者の 8 割以上は、実父母を介護しており（82.8%）、嫁頼みの家族介護モデルは崩れつつあることが要因となっています。要介護度が高い（要介護度 3 以上）要介護者も多く、介護を抱える家族にとっては、「精神的・肉体的疲労」（76.5%）のみならず、「経済的負担」（64.5%）も大きくなっています。要介護度 5 になると、月 5 万円以上負担をしている回答者は 4 割（41.2%）にもものぼり、子どもの教育費や住宅ローンなども考慮すれば、介護が家計にも深刻な影響を及

ぼしていることが推測されます。また、少数ではありますが、近年注目されつつある若年介護者（ヤングケアラー）の存在も確認でき、昇進などに対する不安を抱えていることが明らかになりました。

では、企業での支援制度とその利用状況はどのようになっているのでしょうか。実は、制度を利用したことがない働く介護者は8割以上を占め、その多くが年次有給休暇で対応しているのが現状です。最も多く利用された介護休暇制度も、その利用者は4.1%と低位にとどまっています。その背景には、制度を知らない、同僚・仲間に迷惑をかける、利用に支障を感じているなど、制度がほとんど活用されていない実態が浮き彫りとなりました。

「現在、過去に家族、親族で介護を受けた方がいない」と答えた人のうち、じつに男性の33.5%、女性の36.7%が今後10年以内に自分が介護者になる可能性があるという回答をしています。働く介護者予備軍は、遠距離介護や、子育てと介護とのサンドイッチ、ひいては離職など、多くの不安を抱えていることが分かりました。離職することなく、介護しながら働き続けられる環境をいかに創出していくかという問題は、少数の労働者の問題ではなく、圧倒的多数の労働者が直面しうる問題になりつつあるといえるでしょう。制度の周知徹底と、介護ニーズを安心して相談できる職場環境づくりはその第一歩となります。介護を抱える同僚を応援したいという8割近い回答者の思いを、職場の環境改善にどう活かしていくかが問われています。

これまで多くの企業は、ワーク・ライフ・バランス支援の中軸を「育児と仕事の両立」に据えてきました。とくに育児休業制度は、産前・産後休暇との連続性の中で、「One size fits all」型の画一化された支援として、定着しつつあります^(注)。それに対して、介護はきわめて個別性が高いため、介護と仕事の両立の実現には、育児を踏襲した制度を整備するだけでは十分ではありません。育児と介護の差異に配慮したうえでの、支援制度の設計と運用とが求められています。具体的には、介護の担い手および介護空間の多様性、準備期間の欠如、期間の長期化と不確実性の増大といった点に配慮し、多様な選択肢を保障することが必要となります。介護は年々長期化する傾向にあり、持続可能性の高い働き方をいかに保障していくかが特に重要な課題となります。

当然のことながら、介護と仕事の両立の問題は、企業だけの問題にとどまりません。企業による両立応援制度の充実と並行して、たとえば保育所並みのデイサービスや、施設の拡充など、働く介護者を前提とした介護サービスの充実も欠かせません。企業、行政、地域が一体となって、介護することや老いることに希望が持てる社会を実現させることが、長寿国日本に課せられた世界的使命と言えるでしょう。

注釈：One size fits allとは、本来、「ひとつのサイズがすべてに当てはまる／フリーサイズ」という意味であり、定型化・画一化されたサービスを指します。

アンケート用紙

2013年度 勤労者世帯における仕事と介護の両立に向けてのアンケート調査 —仕事と介護（病児・病氣・障害・高齢）の両立に向けての支援・対策のために—

このアンケートは、京都の職場で働く勤労者の皆様を対象に、労働組合や関係機関を通じてお願いするものです。ご回答いただいた内容は、行政の取組や各労働組合の活動、京都勤労者学園の事業に役立てる資料とするもので、それ以外の目的に使われることはありません。

※回答は、該当する選択肢の□に✓をつけてください。

調査団体：公益社団法人 京都勤労者学園

(公社)京都勤労者学園(愛称:ラポール学園、ラポールはラテン語で「労働」の意)は、1957年に労働組合、大学教員などの学識経験者、京都府・京都市の協力によって設立され、京都市から勤労者教育に関する事業の実施を受託し、夜間の常設の各種学校である「京都労働学校」を運営しています。労働法、経営、哲学、日本史などの他、ビジネスマナー講座など資格取得の講座や英会話をはじめ語学、メンタルヘルスについての理解を深める講座などを開講しています。

【問1】 貴方の性別、年齢、世帯構成、職種、雇用形態について、当てはまるものを選んでください。

- 性別 ①男性 ②女性
 年齢 ①10代 ②20代 ③30代 ④40代
⑤50代 ⑥60代以上
 世帯構成 ①単身世帯 ②単身世帯ではない
 雇用形態 ①正社員 ②正社員以外
(有期・契約社員、派遣社員、パート・アルバイト等)
 事業所の規模 ①30人未満 ②30人～99人
③100人～299人 ④300人～999人
⑤1000人以上 ⑥公務

【問2】 現在、もしくは過去に、貴方の家族・親族で何らかの介護を受けている方がおられますか。

- ①現在いる ⇒問3へ
②過去10年の間にいた ⇒問3へ
③いない ⇒問4へ

【問3】 問2で、「いる・いた」とお答えの方にお尋ねします。

- イ、介護の対象はどなたですか。該当するものを全て選んでください。
①実父母 ②義父母 ③配偶者 ④子ども
⑤兄弟姉妹 ⑥祖父母
⑦その他 ()
- ロ、主な介護の場所はどこですか。主なものを一つ選んでください。
①在宅(同居) ②在宅(別居・近隣)
③在宅(別居・遠隔地) ④病院・診療所などに入院
⑤老人ホームなど介護施設に入所
⑥その他 ()
- ハ、介護者の内容について、主なものを三つ以内で選んでください。
①貴方が中心になって介護している(いた)
②配偶者が中心になって介護している(いた)
③親や家族で介護している(いた)
④親戚が中心になって介護し、貴方はそれを応援している(いた)
⑤貴方が主に経済的な負担を担っている(いた)
⑥その他 ()

ニ、介護の度合いについて、該当するもの一つを選んでください。

- ①見守りを要する (要支援1程度)
②部分的な介護を要する (要支援2/要介護1程度)
③軽度の介護を要する (要介護2程度)
④中程度の介護を要する (要介護3程度)
⑤重度の介護を要する (要介護4程度)
⑥最重度の介護を要する (要介護5程度)
⑦以上のどれにも当てはまらない ()

ホ、介護や介護の応援上、不安や負担に思う点について、主なものを三つ以内で選んでください。

- ①経済的な負担 ②精神的・肉体的疲労
③自分の時間が取れないなど、行動が拘束される
④公的サポートの不備 ⑤勤務先の理解・配慮不足
⑥相談できる人がいない
⑦その他 ()

ヘ、月当たりの経済的負担額は、どれくらいです(でした)か。

- ①3万円未満 ②5万円未満
③5万円以上(約 万円)

ト、職場の介護応援制度で、利用したことのあるものを全て選んでください。

- ①介護休暇制度(時間単位・半日単位・一日単位)
②介護休業制度 ③労働時間の短縮制度
④業務などにおける配慮規程 ⑤在宅勤務制度
⑥見舞金制度 ⑦職場に応援制度がない
⑧利用したことがない(理由)
⑨勤務先の制度の対象外のため、利用できない

【問4】 問2で、「いない」とお答えの方にお尋ねします。

イ、今後家族に介護が必要となった場合を想定して、不安に思われる点を全て選んでください。

- ①経済的な負担 ②精神的・肉体的疲労
③自分の時間が取れないなど、行動が拘束される
④公的サポートの不備 ⑤職場の理解・配慮不足
⑥相談できる人がいない
⑦その他 ()

ロ、今後、あなた自身が介護者になる可能性はありますか。

- 該当するもの一つを選んでください。
①いつ介護者になってもおかしくない
②今後10年以内にはその可能性が高まる
③長期的にはその可能性が出てくるかもしれないが、今後10年以内の可能性はないと思う
④介護者になる可能性はない
⑤その他 ()

★裏面も回答をお願いします

【問5】 貴方の職場では、介護する者への応援制度としてどのようなものがありますか。現在ある制度を全て選んでください。

- ①介護休暇制度（時間単位・半日単位・一日単位）
②介護休業制度 ③労働時間の短縮制度
④業務などにおける配慮規程 ⑤在宅勤務制度
⑥見舞金制度 ⑦職場に応援制度がない
⑧あるかないかを知らない

【問6】 職場の介護応援制度を利用する際（今後するとして）、支障に感じる（感じた）ことはありますか。主なものを三つ以内で選んでください。

- ①支障に感じたことはない ②仕事（昇進等）への影響
③職場の雰囲気（利用しにくい、利用した人がいない等）、忙しさ
④同僚や仲間迷惑をかける
⑤自分の仕事を代わってくれる人がいない
⑥経済的な損失・負担
⑦その他（ ）

【問7】 職場で介護について、相談できる人・できそうな人はいますか。該当するものを全て選んでください。

- ①上司 ②人事・労務担当者（相談室などを含む）
③同僚 ④労働組合
⑤その他（ ）
⑥いない

【問8】 職場に介護を抱える同僚がいた場合、あなたの気持ちとしては応援したいと思いますか。該当するものを一つ選んでください。

- ①思う ②思わない ③わからない

【問9】 次の(イ)～(二)の国の制度・支援策等について、「内容まで知っている」場合は①、「聞いたことがある」場合は②、「知らない」場合は③と後尾の()にご記入ください。

- イ) 育児・介護休業法で定められている「介護休業制度」 ()
ロ) 育児・介護休業法で定められている「介護休暇制度」 ()
ハ) (イ)、(ロ)の介護休業、介護休暇の対象となる労働者の要件 ()
二) 介護休業給付金 ()

【問10】 離職することなく、働きながら介護に関わるために、必要だとと思われる主な点を、それぞれ三つ以内で選んでください。

イ、施設について

- ①老人ホームなど公的施設の増設
②入所費用や利用料の本人負担の軽減、国庫負担の増大
③施設の内容やサービス、運営の改善
④施設職員の増員、技術の向上、勤務条件の改善
⑤その他（ ）

ロ、在宅介護について

- ①介護保険制度の内容の充実（支援策の充実）
②介護制度の充実など勤務先における支援制度の整備
③働きながら介護に関わる人に対応した介護サービスの充実
④家族・親族の介護・扶養の義務化
⑤住宅条件の改善
⑥その他（ ）

ハ、情報・知識

- ①介護サービスの種類・内容、支援制度・施設情報等の周知徹底
②遠距離介護に役立つ知識・情報の普及
③介護実習の機会の増設
④介護者同士が情報交換できる場の創設・増設
⑤その他（ ）

ニ、職場での介護応援制度

- ①時間単位で取れる介護休暇制度
②介護休業・休職制度 ③労働時間の短縮制度
④業務などにおける配慮規程 ⑤在宅勤務制度
⑥休暇期間の限度の拡大 ⑦賃金の保障
⑧社会保険の本人負担額の免除 ⑨見舞金制度
⑩その他あれば良いと思われる制度（ ）
⑪わからない ⑫ない

ホ、職場の同僚による支援

- ①仕事の分担 ②休暇取得等に対する理解 ③気持ちの理解

ヘ、国・地方公共団体に求めること

- ①介護休業期間の拡大（※現行は93日間以内）
②介護休暇期間の拡大（※現行は対象家族一人につき5日）
③介護休業、介護休暇の対象労働者の拡大（※現行は要介護状態にある対象家族を介護する労働者。ただし、法律、労使協定により適用除外になる場合有）
④介護休業給付金の増額（※現行は休業開始時賃金の40%）
⑤職場における国の制度（介護休業制度、介護休暇制度、介護保険制度、介護休業給付金等）の普及、制度充実、利用促進
⑥介護サービスの種類・内容、支援制度・施設情報等の周知徹底
⑦特になし
⑧わからない
⑨その他（ ）

*付加質問に対するご協力をお願い

勤労者の教育や福祉の充実を目指す事業団体の認知度を高めるため、以下の項目についてもご回答をお願いします。

京都府内には、勤労者の教育や福祉の充実を目指して、下記の団体が様々な事業を展開していますが、この調査票を見る前から、それぞれの事業団体のことをご存じでしたか。下記の4項目から一つ選び、事業団体ごとにその番号を後尾の()にご記入ください。

- ① 事業を利用・活用している。又は、したことがある。
② 知っていたが、事業を利用・活用したことはない。
③ 名前は聞いたことがあるが、事業内容などは知らない。
④ 名前も知らなかった。

事業団体名

- イ) 京都勤労者学園（ラポール学園） ()
ロ) 近畿ろうきん（労金）（近畿労働金庫） ()
ハ) 全労済（全国労働者共済生活協同組合連合会） ()
二) 労福協（京都労働者福祉協議会） ()
ホ) 京都労働者総合会館（ラポール京都） ()
ヘ) ㈱エル・ユニオン京都/レユニオントラベル京都 ()

御協力ありがとうございました

回答者の属性

回答を得られた人の合計は2309人で、その内男性が1821人、78.9%、女性が392人、17.0%で、年齢別には、男女とも30代が最も多く、合わせて707人、30.6%を占めます。次いで多いのが男女とも40代で、合わせて665人、28.8%ですが、男性では50代が3番目に多く19.5%なのに対して女性は17.1%にとどまり、逆に20代では女性で23.2%、男性では14.2%と、若干男性の方が年齢は高いものとなっています。

雇用形態別にみると、全体では正社員比率が85.2%と圧倒的ですが、女性だけをみると正社員比率は70.4%にとどまり、正社員以外、すなわち非正規雇用者が25.0%を占めています。60代では正社員以外が80.6%を占めますが、その内大半は男性です。60歳定年を迎えて、嘱託再雇用されている人が多いのではないかと思います。女性の25%を占める「正社員以外」の方の年齢は全体に跨ります。

表-1 性別、年代別

	男 性		女 性		白 紙		合 計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
10代	12	0.7	5	1.3	0		17	0.7
20代	259	14.2	91	23.2	5		355	15.4
30代	573	31.5	115	29.3	19		707	30.6
40代	544	29.9	97	24.7	24		665	28.8
50代	355	19.5	67	17.1	27		449	19.4
60代	69	3.8	16	4.1	18		103	4.5
白紙	9	0.5	1	0.2	3		13	0.6
合計	1821	100.0	392	100.0	96		2309	100.0
男女比		78.9		17.0		4.2		100.0

表-2 世帯別、雇用形態別分布

	正 社 員		正社員以外		白 紙		合 計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
単身世帯	480	24.4	39	16.1	39		558	24.2
単身ではない	1397	71.0	183	75.6	34		1614	69.9
白紙	91	4.6	20	8.3	26		137	5.9
合計	1968	100.0	242	100.0	99		2309	100.0
雇用形態別構成比		85.2		10.5		4.3		100.0

世帯別では、単身世帯は全体で24.2%、「単身世帯ではない」が69.9%となっています。企業の規模別の属性をみると、300人未満企業の労働者が31.7%で、300人以上の大企業労働者が59.7%を占めます。

特に男性では大企業労働者が63%を占めますが、女性は大企業労働者の43.1%に対して、300人未満企業の労働者の方が47.4%と多数を占めています。

また、「正社員以外」の比率は全体では 10.5%と 1 割強ですが、300 人未満企業での比率は 17.1%で、女性だけの中では 34.4%を占めます。公務労働者は全体で 111 人、4.8%にとどまっています。こうした全体の傾向は過去の調査とほぼ同じ傾向で、大企業労働者比率が高いことや、男性比率が高いこと、正社員比率が高いことなどを念頭に結果をみていただきたい。

表－3 企業規模別、雇用形態別

	正社員		正社員以外		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
30人未満	68	3.5	19	7.9	4	4.0	91	3.9
30～99人	118	6.0	72	29.8	13	13.1	203	8.8
100～299人	386	19.6	34	14.0	17	17.2	437	18.9
300～999人	314	16.0	15	6.2	12	12.1	341	14.8
1000人以上	932	47.4	65	26.9	40	40.4	1037	44.9
公務	95	4.8	14	5.8	2	2.0	111	4.8
白紙	55	2.8	23	9.5	11	11.1	89	3.9
合計	1968	100.0	242	100.0	99	100.0	2309	100.0

調査の結果

「家族、親族に被介護者がいる（いた）」は 3 割弱

「現在、もしくは過去に、家族や親族で介護を受けている人がおられるか」という設問に対して、「現在いる」という人は 379 人で全体の 16.4%、「過去 10 年の間にはいた」という人は 302 人、13.1%。「過去にいた」「現在いる」を合わせると 681 人になりますが、過去にもいたし現在もいるという人が 4 人いるので、調査対象者のベースでは 677 人（29.3%）になります。3 割弱の人が被介護者を抱えていたか抱えていることになるわけです。

677 人の内訳は、性別比で男性 512 人、女性 136 人で男性比率が 75.6%を占めますが、調査対象者比では、男性の 28.1%に対して女性は 34.7%と女性の方が高くなっています。

年代別では 50 代の 48.3%、60 代の 39.8%の人が被介護者を抱えている（いた）ことになります。

また、正社員以外の方が正社員より介護者を抱えた比率が若干ですが高く、「介護のために正規では勤められない」という人もおられるものと思われます。

企業規模別でみると、「30～99 人」企業で 33.0%、「1000 人以上」企業で 31.1%、公務労働者で 32.4%と平均値より少し高い比率になっています。

表-4 現在、もしくは過去に介護者がおられますか

	現在いる		過去10年間の間にいた		いない		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
男性	280	15.4	235	12.9	1308	71.8	1	0.1	1824	100.2
女性	81	20.7	56	14.3	256	65.3	0	0.0	393	100.3
白紙	18	18.8	11	11.5	66	68.8	1	1.0	96	100.0
合計	379	16.4	302	13.1	1630	70.6	2	0.2	2313	100.2

表-5 介護者の有無(年代別)

	現在いる		過去にいた		いない		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
10代	3	17.6	0	0	14	82.4	0	0	17	100
20代	38	10.7	44	12.4	273	76.9	0	0	355	100
30代	82	11.6	74	10.5	550	77.8	1	0.1	707	100
40代	105	15.8	72	10.8	488	73.4	0	0.0	665	100
50代	126	28.1	91	20.3	236	52.6	0	0.0	453	100.9
60代	22	21.4	19	18.4	62	60.2	0	0.0	103	100
白紙	3	23.1	2	15.4	7	53.8	1	7.7	13	100
合計	379	16.4	302	13.1	1630	70.6	2	0.1	2313	100.2

「いる」「いた」と答えた人、その内容は

① 介護の対象者は「実父母」が5割弱

問2で、家族・親族で介護を受けている人がいる、もしくはいた人677人にその内容や課題などを聞いてみると、まず、「介護の対象者」は、実父母が最も多く329人で48.6%を占めます。次いで祖父母が246人36.3%、義父母が97人14.3%となっています。介護対象者全体数は722人で、複数の対象者がいた(いる)人が45人いることになります。

年代別にみると、20、30代では「祖父母」が圧倒的であり(89.0%、72.4%)、50、60代では実父母が圧倒的(74.2%、75.6%)です。書き込み欄には「父も母も介護認定を受け、別居中、大変です」との深刻な実態も。

表-6 「いる・いた」と答えた人の介護対象者は

	い る				過去10年間にいた				「現在いる」・「過去にいた」の合計												
	男性		女性		男性		女性		男 性		女 性		白 紙		合 計						
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%					
実父母	147	48.8	38	44.1	12	19	65.5	197	48.6	103	22	7	132	250	48.8	60	44.1	19	65.5	329	48.6
義父母	44	13.5	13	16.2	5	6	20.7	62	14.3	25	9	1	35	69	13.5	22	16.2	6	20.7	97	14.3
配偶者	4	1.0	0	1.5	1	1	3.4	5	1.2	2	0	0	3	5	1.0	2	1.5	1	3.4	8	1.2
子ども	7	1.4	0	0.0	0	0	0.0	7	1.4	0	0	0	7	7	1.4	0	0.0	0	0.0	7	1.0
兄弟姉妹	4	1.2	1	0.7	1	1	3.4	6	1.2	1	0.7	1	2	6	1.2	1	0.7	1	3.4	8	1.2
祖父母	77	36.5	30	41.2	0	3	10.3	107	36.3	110	26	3	139	187	36.5	56	41.2	3	10.3	246	36.3

表一七 「いる・いた」と答えた人の介護対象者(年代別)分布

	10代		20代		30代		40代		50代		60代		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
実父母	0		5	6.1	34	21.8	101	57.1	158	74.2	31	75.6	0		329	48.6
義父母	0		0		7	4.5	19	10.7	56	26.3	12	29.3	3		97	14.3
配偶者	0		0		1	0.6	3	1.7	4	1.9	0		0		8	1.2
子ども	0		0		0		4	2.3	3	1.4	0		0		7	1.0
兄弟姉妹	0		2	2.4	1		2	1.1	2	0.9	1	2.4	0		8	1.2
祖父母	2		73	89.0	113	72.4	47	26.6	9	4.2	0		2		246	36.3
その他	1		4	4.9	6	3.8	8	4.5	7	3.3	0		0		26	3.8
白紙	0		0		1		0		0		0		0		1	
合計	3		84	102.4	163	104.5	184	104.0	239	112.2	44	107.3	5		722	106.6

② 介護の場所、6割強が「在宅」

介護の場所としては「同居の在宅介護」が27.9%と最も多く、次いで「老人ホームなど介護施設」(23.8%)、「在宅(別居・近隣)」(19.8%)と続きます。在宅介護が同居、別居含めて64.1%に達し、「病院・診療所」「老人ホーム」など施設入居は4割にとどまっています。書き込み欄には、「デイケアセンター」「週2日の通いサービス」など。

表一八 主な介護の場所

	いる		いた		合計	
	人	%	人	%	人	%
在宅(同居)	100	26.4	89	29.5	189	27.9
在宅(別居・近隣)	76	20.1	58	19.2	134	19.8
在宅(別居・遠隔)	72	19.0	39	12.9	111	16.4
病院・診療所など	47	12.4	67	22.2	114	16.8
老人ホームなど	98	25.9	63	20.9	161	23.8
その他	9	2.4	3	1.0	12	1.8
白紙	1	0.3	0		1	0.1
合計	403	106.3	319	105.6	722	106.6

③ 介護の担い手、「親や家族」が5割強

介護の担い手としては「親や家族」という人が54.8%と半数を超えます。次いで「配偶者が中心」が22.2%で、その大半が男性です。特に在宅介護(同居)の場合は大半が男性、つまり、妻が介護の担い手の中心ということで、働きながらの介護という姿はあまり見えてきません。妻や親など家族による介護が支えになっていると言えるでしょう。

表一九 介護者の内容について

	男性		女性		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
貴方が中心になって介護	64	12.5	29	21.3	6	20.7	99	14.6
配偶者が中心になって介護	126	24.6	16	11.8	8	27.6	150	22.2
親や家族で介護	283	55.3	79	58.1	9	31.0	371	54.8
親戚が中心になって介護し、貴方はそれを応援	81	15.8	31	22.8	5	17.2	117	17.3
貴方が主に経済的に負担	48	9.4	3	2.2	3	10.3	54	8.0
その他	39	7.6	8	5.9	4	13.8	51	7.5
白紙	2	0.4	2	1.5	0		4	0.6
合計	643	125.6	168	123.5	35	120.7	846	125.0

表-10 介護者の内容(介護者の年代)

	10代		20代		30代		40代		50代		60代	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
貴方が中心になって介護	0		1	1.2	6	3.8	34	19.2	43	20.2	13	31.7
配偶者が中心になって介護	0		6	7.3	5	3.2	41	23.2	78	36.6	18	43.9
親や家族で介護	3		58	70.7	121	77.6	102	57.6	75	35.2	11	26.8
親戚が中心になって介護し、貴方はそれを応援	1		25	30.5	28	17.9	22	12.4	32	15.0	9	22.0
貴方が主に経済的に負担	0		1	1.2	4	2.6	14	7.9	29	13.6	6	14.6
その他	0		5	6.1	8	5.1	12	6.8	23	10.8	3	7.3
白紙	0		1		2	1.3	0		0		1	

それでも、50代、60代では「貴方が中心」「配偶者が中心」が5割を超え、60代では75.6%と「老老介護」の実態も見えてきます。「貴方が中心になって介護している」場合は、その対象者が実父母であるケースが82.8%に及び、また、義父母が介護対象者の場合は、「配偶者が中心になって介護」が最も多いものとなっています。祖父母の場合は「親や家族で」が圧倒的に多く、70%を占めます。

④ 「要介護3以上」が半数以上

介護の度合いでは、「要介護3程度」が最も多く24.8%を占めます。平成23年度の全国の介護保険認定者数では「要介護1」が最も多く18%強で、「要支援2」と合わせると31%を占めていますが、本調査では「要介護3程度」「要介護4程度」が多く、要介護3以上で53.8%を占めます。

表-11 介護の度合いについて

	男 性		女 性		白 紙		合 計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
要支援1程度	55	10.4	13	9.2	5		73	10.5
要支援2、要介護1	82	15.6	25	17.6	5		112	16.0
要介護2程度	83	15.7	22	15.5	3		108	15.5
要介護3程度	136	25.8	29	20.4	8		173	24.8
要介護4程度	86	16.3	28	19.7	3		117	16.8
要介護5程度	63	12.0	18	12.7	4		85	12.2
当てはまらない	11	2.1	5	3.5	1		17	2.4
白紙	11	2.1	2	1.4			13	1.9
合計	527	100.0	142	100.0	29		698	100.0

⑤ 不安や負担は「精神的肉体的疲労」

同じく介護者を抱えている(いた)人に対して、介護や介護の応援上、不安や負担に思う点について尋ねました。最も多いのは「精神的肉体的疲労」を上げる人が全体で76.5%を占め、これは性別や年代、企業規模などにかかわらず同様の傾向となっています。次いで、「経済的な負担」(64.5%)、「行動が拘束される」(51.0%)と続き、「公的サポートの不備」は17.7%にとどまっています。「勤務先の理解・配慮不足」も10.2%と1割程度です。

表-12 介護や介護の応援上不安や負担に思う点

	男 性		女 性		白 紙		合 計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
経済的な負担	346	67.6	75	55.1	16		437	64.5
精神的肉体的疲労	393	76.8	104	76.5	21		518	76.5
行動が拘束される	252	49.2	78	57.4	15		345	51.0
公的サポートの不備	99	19.3	18	13.2	3		120	17.7
勤務先の理解・配慮不足	49	9.6	20	14.7	0		69	10.2
相談できる人いない	20	3.9	6	4.4	1		27	4.0
その他	10	2	4	2.9	1		15	2.2
白紙	8	1.6	2	1.5	1		11	1.6
合計	1177	229.9	307	225.7	58	200.0	1542	227.8

表-13 同上(企業規模別)

	30人未満		30~99人		100~299人		300~999人		1000人以上		公 務		白 紙	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
経済的な負担	13	52.0	44	65.7	68	61.8	60	74.1	215	66.6	17	47.2	20	57.1
精神的肉体的疲労	18	72.0	53	79.1	85	77.3	65	80.2	246	76.2	27	75.0	24	68.6
行動が拘束される	11	44.0	38	56.7	56	50.9	40	49.4	163	50.5	17	47.2	20	57.1
公的サポートの不備	6	24.0	16	23.9	21	19.1	15	18.5	51	15.8	5	13.9	6	17.1
勤務先の理解・配慮不足	2	8.0	9	13.4	10	9.1	9	11.1	35	10.8	3	8.3	1	2.9
相談できる人いない	0	0.0	4	6.0	4	3.6	5	6.2	9	2.8	2	5.6	3	8.6
その他	1	4.0	0	0.0	1	0.9	2	2.5	10	3.1	0	0.0	1	2.9
白紙	1	4.0	0	0.0	4	3.6	0	0.0	3	0.9	2	5.6	1	2.9
合計	52	208.0	164	244.8	249	226.4	196	242.0	732	226.6	73	202.8	76	217.1

⑥ 経済的負担額、介護度合いに応じて

そして、介護に要する月当たりの経済的負担額は「3万円未満」が最も多く32.6%、「5万円未満」が28.8%、「5万円以上」は22.5%となっています。「5万円以上」の152人の内、具体的な金額記入は72人で、「10万円以上」は41人いました。介護の場所が「病院・診療所」の場合は「5万円未満」が32.5%と一番多く、「5万円以上」も30.7%で、「老人ホームなど」では「5万円以上」が38.4%に及びます。また、介護度合いが高度になるほど経済的負担は多いものとなっています。「要介護2程度」までは3万円未満が4割を超えますが、「要介護5程度」では5万円以上が41.2%にのびります。

表-14 月当たりの経済的負担額

	男 性		女 性		白 紙		合 計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
3万円未満	170	33.2	41	30.1	10		221	32.6
5万円未満	161	31.4	27	19.9	7		195	28.8
5万円以上	110	21.4	34	25.0	8		152	22.5
白紙	71	13.9	34	25.0	4		109	16.1
合計	512	100.0	136	100.0	29	100.0	677	100.0

⑦ 介護休暇制度の利用、わずか4.1%

職場の介護応援制度の利用状況を聞いてみると、「介護休暇制度」を利用したことがある人は28人でわずか4.1%。それでも一番利用されている制度である「介護休業制度」にいたっては、利用は10人だけです。「応援制度がない」はわずか10人ですが、「利用したことがない」が73.6%

で、白紙の多さを考慮すれば8割以上の人が利用しておらず、職場に制度があるとは言い難い状況と言えます。企業規模別にみても、1000人以上企業に働く労働者で、家族などに介護を受けた人がいる(いた)という人は323人いますが、「介護休暇制度」の利用は5.6%で、何らかの制度利用をした人は41人(12.5%)で最も利用されているグループです。30人未満企業では利用は皆無で、公務職場でも利用は極端に低いものとなっています。利用したことがない理由の書き込み欄には175人もの人から記入がありました。主なものとしては、①よく知らなかった、制度がわからない。②年次有給休暇を利用してきた。③自分が介護の中心ではなかった。などです。

表-15 職場の介護応援制度で利用したことのあるもの

	男 性		女 性		白 紙		合 計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
介護休暇制度	20	3.9	7	5.1	1		28	4.1
介護休業制度	5	1.0	5	3.7	0		10	1.5
労働時間の短縮制度	3	0.6	4	2.9	0		7	1.0
業務での配慮規程	12	2.3	2	1.9	1		15	2.2
在宅勤務制度	0	0.0	1	0.7	0		1	0.1
見舞金制度	7	1.4	3	2.2	0		10	1.5
応援制度がない	9	1.8	1	0.7	0		10	1.5
利用したことがない	378	73.8	98	72.0	22		498	73.6
対象外の為利用できない	19	3.7	6	4.4	1		26	3.8
白紙	64	12.9	13	9.6	5		82	12.1
合計	517	101.0	140	102.9	30		687	101.5

表-16 同上(企業規模別)

	30人未満		30~99人		100~299人		300~999人		1000人以上		公 務		白 紙	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
介護休暇制度	0		1	1.5	4	3.6	3	3.7	18	5.6	0		2	
介護休業制度	0		2	3.0	2	1.8	1	1.2	3	0.9	1	2.8	1	
労働時間の短縮制度	0		0		1	0.9	1	1.2	5	1.5	0		0	
業務での配慮規程	0		0		2	1.8	3	3.7	7	2.2	1	2.8	2	
在宅勤務制度	0		0		0		0		1	0.3	0		0	
見舞金制度	0		1	1.5	1	0.9	1	1.2	7	2.2	0		0	
応援制度がない	2	8.0	1	1.5	1	0.9	1	1.2	4	1.2	0		1	
利用したことがない	18	72.0	52	77.6	86	78.2	57	70.4	237	73.4	27	75.0	21	60.0
対象外の為利用できない	3	12.0	7	10.4	15	13.6	10	12.3	34	10.5	5	13.9	8	22.9
白紙	2	8.0	3	4.5	2	1.8	4	4.9	13	4.0	2	5.6	0	

表一17 介護の内容(場所と対象者)

	実父母		義父母		配偶者		子ども		兄弟姉妹		祖父母		その他	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
在宅(同居)	104	29.5	17	15.6	5	55.6	6	85.7	1	12.5	57	22.6	6	22.2
在宅(別居・近隣)	76	21.5	32	29.4	2	22.2	0	0.0	2	25.0	34	13.5	2	7.4
在宅(別居・遠隔地)	58	16.4	15	13.8	1	11.1	0	0.0	1	12.5	42	16.7	5	18.5
病院・診療所などに入院	58	16.4	18	16.5	1	11.1	1	14.3	0	0.0	37	14.7	4	14.8
老人ホームなど施設に入所	51	14.4	25	22.9	0	0.0	0	0.0	3	37.5	82	32.5	6	22.2
その他	6	1.7	1	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.8	4	14.8
白紙	0	0.0	1	0.9	0	0.0	0	0.0	1	3.2	0	0.0	0	0.0
合計	353	100.0	109	100.0	9	100.0	7	100.0	8	100.0	252	100.0	27	100.0

表一18 介護の内容(場所と担い手)

	貴方が中心になって介護		配偶者が中心に介護		親や家族で		親戚が中心		貴方が経済的負担		その他		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
在宅(同居)	47	25.1	54	28.9	96	51.3	14	7.5	31	16.6	13	7.0	0	0.0	255	136.4
在宅(別居・近隣)	13	9.8	33	25.0	77	58.3	21	15.9	1	0.8	11	8.3	1	0.8	157	118.9
在宅(別居・遠隔地)	8	7.2	20	18.0	63	56.8	31	27.9	5	4.5	11	9.9	0	0.0	138	124.3
病院・診療所などに入院	19	1.7	26	2.3	60	5.4	18	1.6	11	1.0	9	0.8	1	0.1	144	12.9
老人ホームなど施設に入所	24	15.2	26	16.5	93	58.9	37	23.4	11	7.0	8	5.1	2	1.3	201	127.2
その他	1	8.3	3	25.0	6	50.0	0	0.0	0	0.0	2	16.7	0	0.0	12	100.0
白紙	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
合計	112	15.7	162	22.7	395	55.2	122	17.1	59	8.3	54	7.6	4	0.6	908	127.0
		/99		/150		/371		/117		/54		/51		/4		/849

表一19 介護の内容(場所と介護の度合い)

	要支援1		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		あてはまらない		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
在宅(同居)	18	9.5	38	20.1	27	14.3	49	25.9	25	13.2	31	16.4	4	2.1	3	1.6	195	103.2
在宅(別居・近隣)	17	12.7	24	17.9	27	20.1	40	29.9	15	11.2	12	9.0	2	1.5	2	1.5	139	103.7
在宅(別居・遠隔地)	12	10.8	26	23.4	20	18.0	27	24.3	14	12.6	11	9.9	4	3.6	3	2.7	117	105.4
病院・診療所などに入院	11	9.6	11	9.6	11	9.6	27	23.7	28	24.6	20	17.5	5	4.4	4	3.5	117	102.6
老人ホームなど施設に入所	18	11.2	16	9.9	27	16.8	37	23.0	43	26.7	19	11.8	3	1.9	1	0.6	164	101.9
その他	3	25.0	2	16.7	3	25.0	3	25.0	1	8.3	0	0.0	1	8.3	0	0.0	13	108.3
白紙	0		1		0		0		0		0		0				1	
合計	79		118		115		183		126		93		19		13			
		/73		/112		/108		/173		/117		/85		/17				

介護の場所と不安や負担に思う点との関係

	経済的負担		精神的肉体的疲労		行動が拘束される		公的サポートの不備		勤務先の配慮不足		相談出来る人いない		その他		白紙		3万未	5万未	5万～	白紙
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	人	人	人
在宅(同居)	115	60.8	148	78.3	106	56.1	33	17.5	21	11.1	10	5.3	2	1.1	0		61	69	33	24
在宅(別居・近隣)	73	54.5	101	75.4	60	44.8	21	15.7	14	10.4	4	3.0	0		3		67	32	19	15
在宅(別居・遠隔地)	73	65.8	78	70.3	67	60.4	19	17.1	9	8.1	5	4.5	4	3.6	3		39	36	13	23
病院・診療所などに入院	80	70.1	94	82.5	53	46.5	23	20.2	13	11.4	4	3.5	4	3.5	0		24	37	35	18
老人ホームなど施設に入所	115	71.4	117	72.7	73	45.3	27	16.8	16	9.9	6	3.7	5	3.1	6		37	33	61	28
その他	6	50.0	8	66.7	7	58.3	2	16.7	1	8.3	0		1	8.3	0		5	1	3	3
白紙	0		1	0.2	0		0		0		0		0		0		0	0	0	1
合計	462	64.0	547	75.8	366	50.7	125	17.3	74	10.2	29	4.0	16	2.2	11	1.5				

介護の場所と職場の介護応援制度利用との関係

	介護休暇制度		介護休業制度		時間短縮制度		業務配慮規程		在宅勤務		見舞金制度		応援制度がない		利用したことない		利用できない		白紙	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
在宅(同居)	9	4.8	4	2.1	2	1.1	6	3.2	1	0.5	3	1.6	3	1.6	132	69.8	8	4.2	22	11.6
在宅(別居・近隣)	7	5.2	1	0.7	2	1.5	3	2.2	0		3	2.2	4	3.0	95	70.9	3	2.2	15	11.2
在宅(別居・遠隔地)	4	3.6	2	1.8	1	0.9	1	0.9	0		2	1.8	0		85	76.6	5	4.5	12	10.8
病院・診療所などに入院	6	5.3	2	1.8	2	1.8	3	2.6	0		0		2	1.8	83	72.8	3	2.6	15	13.2
老人ホームなど施設に入所	5	3.1	2	1.2	1	0.6	2	1.2	0		3	1.9	3	1.9	118	73.3	7	4.3	21	13.0
その他	0		0		0		0		0		0		1		9		1		1	
白紙	0		0		0		0		0		0		0		1		0		0	

表一20 介護の内容(介護の担い手と対象者)

	実父母		義父母		配偶者		子ども		兄弟姉妹		祖父母		その他		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
貴方が中心に介護	82	24.9	15	15.5	5	62.5	0		3		5	2.0	2		0		112	15.5
配偶者が中心に介護	102	31.0	47	48.5	2	25.0	5	71.4	1		7	2.8	2		0		166	23.0
親や家族で介護	143	43.5	37	38.1	3	37.5	2	28.6	3		194	78.9	11		1		394	54.6
親戚が中心に介護し、応援	39	11.9	17	17.5	0		0		2		56	22.8	10		0		124	17.2
貴方が主に経済的に負担	44	13.4	5	5.2	2	25.0	1	14.3	0		2	0.8	2		0		56	7.8
その他	31	9.4	9	9.3	2	25.0	0		1		10	4.1	2		0		55	7.6
白紙	1	0.3	0		0		0		0		3	1.2	0		0		4	
合計	442	134.3	130	134.0	14	175.0	8	114.3	10	125.0	277	112.6					911	126.2
	/329		/97		/8		/7		/8		/246		/26				/722	

介護者と介護度合いとの関係

	要支援1		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		当てはまらず		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
貴方が中心に介護	11	15.1	23	20.5	12	11.1	23	13.3	17	14.5	19	22.4	0		1		106	
配偶者が中心に介護	15	20.5	32	28.6	23	21.3	37	21.4	30	25.6	18	21.2	3		1		159	
親や家族で介護	34	46.6	54	48.2	57	52.8	104	60.1	65	55.6	52	61.2	9		7		382	
親戚が中心に介護し、応援	14	19.2	19	17.0	26	24.1	31	17.9	15	12.8	11	12.9	2		2		120	
貴方が主に経済的に負担	5	6.8	7	6.3	6	5.6	15	8.7	11	9.4	12	14.1	1		0		57	
その他	6	8.2	4	3.6	7	6.5	13	7.5	13	11.1	6	7.1	2		2		53	
白紙	1	1.4	0		1		0		1		0		1		0		4	
合計	86	117.8	139	124.1	132	122.2	223	128.9	152	129.9	118	138.8	18		13			
	73		112		108		173		117		85		17		13			

表一21 介護の内容(担い手と不安や負担)

	経済的負担	精神的肉体的負担	行動が拘束	公的サポート不備	勤務先の配慮不足	相談人いない	その他	白紙	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人
貴方が中心に介護	59	79	61	14	15	3	1	1	99
配偶者が中心に介護	97	115	79	32	14	4	4	0	150
親や家族で介護	243	298	195	69	43	17	9	5	371
親戚が中心に介護し、応援	74	83	53	21	14	4	1	2	117
貴方が主に経済的に負担	43	44	32	18	4	4	1	0	54
その他	28	37	26	11	2	5	1	2	51
白紙	2	2	1	0	0	0	0	1	4
合計	437	518	345	120	69	27	15	11	

表一22 介護の内容(介護度合いと経済的負担額)

	3万円未満		5万円未満		5万円以上		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
要支援1	38	52.1	15	20.5	5	6.8	15	20.5	73	100.0
要介護1	49	43.8	37	33.0	14	12.5	12	10.7	112	100.0
要介護2	40	37.0	31	28.7	23	21.3	14	13.0	108	100.0
要介護3	52	30.1	58	33.5	39	22.5	25	14.5	173	100.0
要介護4	25	21.4	37	31.6	40	34.2	16	13.7	117	100.0
要介護5	20	23.5	22	25.9	35	41.2	8	9.4	85	100.0
当てはまらない	5	29.4	1	5.9	1	5.9	10	58.8	17	100.0
白紙	3		1		0		9		13	100.0

「いない」人も負担、不安感は大きい

問4では、問2で家族・親族で介護を受けている人は「いない」と答えた人に同様の質問をしています。介護が必要になった場合の不安については「経済的な負担」(84.7%)、「精神的肉体的疲労」(76.9%)、「行動が拘束される」(56.0%)と続き、介護を受けた人がいる(いた)人とは若干異なって、一番目と二番目が入れ替わっています。「職場の理解・配慮不足」をあげる人が31.2%と、「いる(いた)」人の10.2%の三倍も多いものとなっています。書き込み欄には、「離職しなければならなくなるかも」「自宅介護が当たり前のような風潮に疑問」「自分で介護できるのか不安」など。

また、介護を受けている人が「いない」人の中でも「いつ介護者になってもおかしくない」人「今後10年以内には可能性高い」と考える人を合わせると34%に及び、現在、及び過去に被介護者がいる（いた）人と合わせると、少なくとも半数以上の人が介護関係者になるわけです。

表-23 問2で「いない」と答えた人、今後不安に思う点

	男 性		女 性		白 紙		合 計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
経済的負担	1116	85.3	205	80.1	59	89.4	1380	84.7
精神的肉体的疲労	996	76.1	205	80.1	52	78.8	1253	76.9
行動が拘束される	732	56.0	144	56.3	36	54.5	912	56.0
公的サポートの不備	384	29.4	63	24.6	19	28.8	466	28.6
職場の理解・配慮不足	406	31.0	82	32.0	20	30.3	508	31.2
相談できる人いない	164	12.5	22	8.6	6	9.1	192	11.8
その他	20	1.5	4	1.6	1	1.5	25	1.5
白紙	5	0.4	1	0.4	0	0.0	6	0.4
合計	3823	292.3	726	283.6	193	292.4	4742	290.9

表-24 問2で「いない」と答えた人、介護者になる可能性は

	男 性		女 性		合 計		
	人	%	人	%	人	%	
いつ介護者になってもおかしくない	192	14.7	39	15.2	236	14.5	
今後10年以内には可能性が高まる	246	18.8	55	21.5	320	19.6	
今後10年以内での可能性はない	704	53.8	147	57.4	904	55.5	
介護者になる可能性はない	165	12.6	15	5.9	185	11.3	
その他	9	0.7	4	1.6	15	0.9	
白紙	9	0.7	1	0.4	16	1.0	
			/1308		/256		/1630

「不安に思われる点」について、被介護者がいる（いた）人といない人での不安項目を比較してみると、

	いる・いた人	いない人
経済的な負担	64.5%	84.7%
精神的肉体的疲労	76.5%	76.9%
行動が拘束される	51.0%	56.0%
公的サポートの不備	17.7%	28.6%
職場の理解・配慮不足	10.2%	31.2%

「いない」という介護未経験者層では、「費用がかかるのではないか」「職場の理解や配慮はのぞめないのではないか」という経験者以上の不安があるようです。全体として未経験者の方が不安度が高いと言えます。

職場での介護応援制度は

問5では、職場での介護応援制度としてどのようなものがあるかを全員を対象に聞きました。実際の制度の有無ではなく、労働者の介護応援制度についての認識度合を聞いたもので、最も強く認識されているのは「介護休暇制度」で45.3%、次いで、「介護休業制度」(27.9%)「労働時間の短縮制度」(15.9%)と続きますが、「あるかないかを知らない」が38.2%と4割近くにのぼります。男性より女性の方に認識度は高く、企業規模別にはほとんど差がなく、公務職場でわずかに全体的傾向より認識度が高いといえます。利用度合いや制度内容についての知識もひ弱であるが、企業からの周知や利用の推進など特別の手立てが必要に思われます。労働者の方でも、「介護は個人責任、会社に迷惑をかけられない」という意識も強いように思われます。

表一25 職場の介護応援制度はどんなものが

	30人未満		30～99人		100～299人		300～999人		1000人以上		公務		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
介護休暇制度	36	39.6	80	39.4	206	47.1	165	48.4	476	45.9	60	54.1	22	24.7	1045	45.3
介護休業制度	30	33.0	42	20.7	100	22.9	114	33.4	311	30.0	30	27.0	17	19.1	644	27.9
労働時間の短縮制度	14	15.4	13	6.4	63	14.4	83	24.3	183	17.6	5	4.5	7	7.9	368	15.9
業務での配慮規程	5	5.5	6	3.0	15	3.4	28	8.2	74	7.1	3	2.7	2	2.2	133	5.8
在宅勤務制度	0	0.0	2	1.0	11	2.5	14	4.1	37	3.6	1	0.9	1	1.1	66	2.9
見舞い金制度	5	5.5	9	4.4	17	3.9	27	7.9	81	7.8	9	8.1	3	3.4	151	6.5
職場に応援制度がない	4	4.4	10	4.9	85	19.5	8	2.3	14	1.4	6	5.4	2	2.2	43	1.9
あるかないかを知らない	32	35.2	81	39.9	168	38.4	121	35.5	401	38.7	33	29.7	46	51.7	883	38.2
白紙	4	4.4	10	4.9	12	2.7	7	2.1	11	1.1	5	4.5	9	10.1	58	2.5
	/91		/203		/437		/341		/1037		/111		/89		/2309	

職場の応援制度利用、大半の人が「支障を感じる」

問6では、職場にある応援制度を利用する際、支障に感じることを尋ねました。「支障に感じたことはない」は僅か14.3%で、支障を感じる人が大半です。この傾向は、「現在介護を受けている人がいる」人も、「貴方が中心になって介護をしている」人も、殆ど差異は無く同様の傾向です。支障の内容としては、「同僚や仲間に迷惑がかかる」が最も多く56.0%、次いで「職場の雰囲気(利用しにくい等)」(38.6%)、「経済的損失・負担」(34.2%)と続きます。「仕事を代ってくれる人がいない」(15.8%)も職場の雰囲気、同僚への迷惑など同質のもので、やはり職場に制度利用を阻む客観的状況があるようです。「貴方が中心に介護をしている」人では、「支障に感じたことはない」が少し高く、20%超えますが、支障の具体的な内容についても全体より支障感は低いと言えます。

表一26 職場の介護応援制度利用で支障に感じる事

	男 性		女 性		白 紙		合 計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
支障に感じたことはない	273	15.0	44	11.2	14	14.6	331	14.3
仕事(昇進等)への影響	447	24.5	72	18.4	14	14.6	533	23.1
職場の雰囲気、忙しさ	707	38.8	149	38.0	36	37.5	892	38.6
同僚や仲間に迷惑かける	983	54.0	268	68.4	43	44.8	1294	56.0
仕事を代わってくれる人ない	290	15.9	59	15.1	15	15.6	364	15.8
経済的な損失・負担	631	34.7	121	30.9	37	38.5	789	34.2
その他	50	2.7	7	1.8	3	3.1	60	2.6
白紙	90	4.9	19	4.8	3	3.1	112	4.9

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	～30人		30人～99人		100～299人		300～999人		1000人～		公 務	
	%	%	%	%	%	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
支障に感じたことはない		21.4	13.3	10.8	14.3	19.4	16	17.6	18	8.9	74	16.9	56	16.4	144	13.9	15	13.5
仕事(昇進等)への影響	41.2	26.8	28.9	10.8	14.0	6.8	12	13.2	42	20.7	77	17.6	89	26.1	282	27.2	20	18.0
職場の雰囲気、忙しさ	35.3	37.2	45.0	23.3	29.4	35.0	24	26.4	70	34.5	172	39.4	134	39.3	431	41.6	34	30.6
同僚や仲間に迷惑かける	58.8	51.5	57.9	61.4	52.3	41.7	46	50.5	112	55.2	241	55.1	198	58.1	578	55.7	68	61.3
仕事を代わってくれる人ない	5.9	12.4	15.7	14.7	20.3	16.5	20	22.0	37	18.2	61	14.0	64	18.8	162	15.6	10	9.0
経済的な損失・負担	29.4	23.9	31.3	40.3	39.4	27.2	20	22.0	82	40.4	112	25.6	102	29.9	394	38.0	47	42.3
その他	0.0	1.7	1.8	2.6	3.1	9.7	0	0.0	8	3.9	10	2.3	10	2.9	27	2.6	1	0.9
白紙	5.9	5.9	4.4	4.5	5.1	5.8	11	12.1	15	7.4	26	5.9	12	3.5	29	2.8	8	7.2
								/91		/203		/437		/341		/1037		/111

介護についての相談、トップは「上司」

次に、介護について相談できる人がいるか尋ねました。「上司」がトップで47.7%、以下「同僚」(37.5%)、「労働組合」(34.3%)と続きます。「いない」も21.4%と2割を超え、企業規模の違いによる差異は特別にはみられません。少なくとも職場や事業所に被介護者を抱えた従業員からの相談窓口のようなものはないようです。公務職場ではわずかに相談チャンネルが多いように思われます(「いない」が少なく、相談先として選択数多い)。

表-27 職場で介護について相談できる人

	男 性		女 性		白 紙		合 計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
上司	872	47.9	195	49.7	35	36.5	1102	47.7
人事・労務担当者	366	20.1	58	14.8	12	12.5	436	18.9
同僚	638	35.0	200	51.0	28	29.2	866	37.5
労働組合	667	36.6	98	25.0	27	28.1	792	34.3
その他	42	2.3	12	3.1	4	4.2	58	2.5
いない	401	22.0	65	16.6	29	30.2	495	21.4
白紙	19	1.0	11	2.8	2	2.1	32	1.4

介護を抱える同僚に「応援したい」は4分の3

問8では、職場に介護を抱える同僚がいた場合、応援したいか、とあえて聞いてみましたが、応援したいと「思う」が75.4%と圧倒的多数ですが、問6で「支障に感じる」という状況への裏返しでもあるようです。職場の労働者の「応援したい」という気持ちに頼る程度のものでいいのか、制度が当たり前前に活用できる仕組み作りが必要に思われます。

表-28 介護を抱える同僚を応援したいと思うか

	男 性		女 性		白 紙		合 計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
思う	1330	73.0	343	87.5	67	69.8	1740	75.4
思わない	29	1.6	5	1.3	1	1.0	35	1.5
わからない	453	24.9	41	10.5	27	28.1	521	22.6
白紙	9	0.5	3	0.8	1	1.0	13	0.6

認識されてない「国の支援策」

問9では国の制度についての認識度合を聞いたところ、
 ○育児・介護休業法で定められている「介護休業制度」については「内容まで知っている」はわずか10.8%、「知らない」が37.2%もあります。現在介護者が「いる」人、「貴方が中心に介護している」人でも「知っている」は若干高い程度（12.9%、12.1%）です。
 ○「介護休暇制度」についても「内容まで知っている」は10.8%だけ。「知らない」は「休業制度」についてより低い34.3%もあります。「聞いたことはある」は知らないと同じことで、少なくとも国のこうした制度も、労働者の実生活への応援にはなっていないようです。
 ○「介護休業・休暇の対象となる要件」については65%が「知らない」し、「聞いたことはある」の23.9%を加えると殆ど制度内容について知られていません。国の制度も定着しておらず、職場の制度利用もままならない、そうした中で個人の責任においてのみ介護が取組まれている、介護をめぐる貧困さが浮かび上がってくるように思われます。

表-29 国の支援策についての認識度合い
 イ、介護休業法に定める介護休業制度について

	男 性		女 性		白 紙		合 計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
内容まで知っている	187	10.3	52	13.3	11	11.5	250	10.8
聞いたことはある	815	44.8	206	52.6	52	54.2	1073	46.5
知らない	733	40.3	102	26.0	24	25.0	859	37.2

ロ、介護休暇制度について

	男 性		女 性		白 紙		合 計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
内容まで知っている	192	10.5	45	115.0	13	13.5	250	10.8
聞いたことはある	865	47.5	227	57.9	47	49.0	1139	49.3
知らない	679	37.3	86	21.9	28	29.2	793	34.3

ハ、介護休業、介護休暇の対象労働者の要件について

	男 性		女 性		白 紙		合 計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
内容まで知っている	91	5.0	18	4.6	2	2.1	111	4.8
聞いたことはある	420	23.1	98	25.0	35	36.5	553	23.9
知らない	1214	66.7	237	60.5	50	52.1	1501	65.0

ニ、介護休業給付金について

	男 性		女 性		白 紙		合 計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
内容まで知っている	87	4.8	22	5.6	3	3.1	112	4.9
聞いたことはある	451	24.8	91	23.2	30	31.3	572	24.8
知らない	1187	65.2	240	61.2	55	57.3	1482	64.2

働きながら介護にかかわるために

負担軽減、職場の応援制度、国の支援策、要求は切実

問10では、働きながら介護に関わるために必要だと思われる点をあげてもらいました。

① 施設については、

「入所費用や利用料の本人負担の軽減、国庫負担の増大」がトップで78.1%、次いで「老人ホームなど公的施設の増設」(66.0%)「職員の増員、技術の向上・・・」(38.7%)と続きます。現在、被介護者が「いる」と言う人も、同様の傾向で、その要求度は高いといえます。「入所費用の軽減・・・」は82.8%にのぼり、要求は切実となっています。書き込

み欄には、「施設職員の待遇改善」「経済的負担の軽減」など。

表-30 介護にとって必要だと思う点(施設について)

	男 性		女 性		白 紙		合 計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
老人ホームなど公的施設	1179	64.7	280	71.4	64	66.7	1523	66.0
入所費用の本人負担の軽減	1419	77.9	310	79.1	74	77.1	1803	78.1
施設の内容、運営の改善	670	36.8	162	41.3	34	35.4	866	37.5
職員の増員、技術向上	689	37.8	173	44.1	32	33.3	894	38.7
その他	18	1.0	6	1.5	3	3.1	27	1.2

② 在宅介護については、

「介護保険制度の内容充実」がトップ(69.8%)ですが、「働きながら介護に関わる人に対応したサービスの充実」(69.4%)も同水準の要求度です。次いで、「勤務先における支援制度の整備」(55.9%)も含めて三大要求となっています。実際に介護に携わっている人(貴方が中心になって介護している)では、「働きながら介護に関わる人に対応したサービスの充実」が83.8%と特別に強い要求となっています。書き込み欄には、「④家族・親族の介護・扶養の義務化は絶対ダメです」「リフォーム費用補助の拡大を」など

表-31 介護にとって必要だと思う点(在宅介護の場合)

	男 性		女 性		白 紙		合 計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
介護保険制度の内容充実	1252	68.8	281	71.7	79	82.3	1612	69.8
勤務先における支援制度	1003	55.1	289	73.7	49	51.0	1290	55.9
働きながら介護に関わる人々への介護サービスの充実	1224	67.2	317	80.9	62	64.6	16.3	69.4
家族・親族の介護の義務化	204	11.2	34	8.7	11	11.5	249	10.8
住宅条件の改善	264	14.5	61	15.6	10	10.4	335	14.5
その他	20	1.1	3	0.8	2	2.1	25	1.1

③ 情報・知識というテーマでは

「介護サービスの種類・内容、支援制度・施設情報などの周知徹底」が必要と言う人が82.3%と高くなっていますが、それぞれ違う要求を網羅した形なので、この課題に集中したのだと思われます。分解して聞いた方が良かったかもしれません。書き込み欄には「企業への周知と指導を」など。

表-32 介護にとって必要だと思う点(情報・知識)

	男 性		女 性		白 紙		合 計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
介護サービスの種類・内容、施設など周知	1506	82.7	316	80.6	78	81.3	1900	82.3
遠距離介護に役立つ知識・情報	652	35.8	154	39.3	28	29.2	834	36.1
介護実習の機会の増設	449	24.7	86	21.9	19	19.8	554	24.0
介護者同士の情報交換の場	490	26.9	135	34.4	29	30.2	654	28.3
その他	14	0.8	2	0.5	0		16	0.7

④ 職場での介護応援制度として必要なものは

「介護休業・休職制度」(42.1%)がトップで、「時間単位でとれる介護休暇制度」(42.0%)も高い要求です。そして、「賃金の保障」(36.6%)「社会保険料の本人負担額の免除」(29.1%)と続きます。現在介護者を抱えている人も、「貴方が中心に介護をしている」人も、傾向、要求度合とも同じような水準です。書き込み欄には、「『介護』を社会貢献度として評価する制度を」など。

表-33 介護にとって必要だと思う点(職場の応援制度)

	男性		女性		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
時間単位でとれる介護休暇制度	724	39.8	206	52.6	39	40.6	969	42.0
介護休業・休職制度	766	42.1	169	43.1	37	38.5	972	42.1
労働時間の短縮制度	376	20.6	119	30.4	25	26.0	520	22.5
業務での配慮規程	439	24.1	90	23.0	17	17.7	546	23.6
在宅勤務制度	205	11.3	36	9.2	13	13.5	253	11.0
休暇期間の限度日数拡大	305	16.7	81	20.7	12	12.5	399	17.3
賃金の保障	674	37.0	135	34.4	37	38.5	846	36.6
社会保険料の本人負担免除	560	30.8	83	21.2	30	31.3	673	29.1
見舞い金制度	130	7.1	21	5.4	6	6.3	157	6.8
その他あれば良いと思われる制度	11	0.6	3	0.8	1	1.0	15	0.6
わからない	112	6.2	11	2.8	7	7.3	131	5.7
ない	22	1.2	1	0.3	0		23	1.0

⑤ 職場の同僚による支援については

「休暇取得等に対する理解」が最も高く59.7%ですが、「仕事の分担」(41.8%)、「気持ちの理解」(38.6%)ともに重要な点だと思われます。しかし、職場の同僚の「思い」に期待する労働環境はいかなるものであろうか。応援したい気持ちは多くの同僚が持っている訳で、それを活かす職場における介護参加の仕組みこそ重要に思われます。書き込み欄には多くの書き込みがありますが、主なものは、「法律を作った人が事情がわかってない」「有給(休暇)の積立制度はあるのに介護では使用できないのが不満」「富裕層、負担能力のある人からの応分の負担」「病院の入院期間の制限撤廃を」「パート、派遣にも活用できる制度を」など。

表-34 介護にとって必要だと思う点(職場の同僚による支援)

	男性		女性		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
仕事の分担	763	41.9	168	42.9	34	35.4	965	41.8
休暇取得などに対する理解	1081	59.4	244	62.2	53	55.2	1378	59.7
気持ちの理解	693	38.1	167	42.6	31	32.3	891	38.6

⑥ 国・地方公共団体に求めることでは

表の通りですが、「介護休業給付金の増額」がトップで44.4%、次いで「介護休業期間の拡大」(44.0%)、「介護休暇期間の拡大」(38.5%)と続きます。

表一35 介護にとって必要だと思う点(国・地方自治体に求めること)

	男性		女性		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
介護休業期間の拡大	796	43.7	175	44.6	44	45.8	1015	44.0
介護休暇期間の拡大	683	37.5	170	43.4	36	37.5	889	38.5
介護休業・休暇の対象労働者の拡大	364	20.0	71	18.1	23	24.0	458	19.8
介護休業給付金の増額	827	45.4	157	40.1	41	42.7	1025	44.4
職場における国の制度の利用促進	539	29.6	128	32.7	23	24.0	690	29.9
介護サービス内容等の情報周知	413	22.7	98	25.0	25	26.0	536	23.2
特になし	38	2.1	4	1.0	0	0.0	42	1.8
わからない	163	9.0	21	5.4	12	12.5	196	8.5
その他	11	0.6	4	1.0	0	0.0	15	0.6

【補足資料】

回答者の属性

年代別、雇用形態別属性

	正社員		正社員以外		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
10代	14	82.4	3	17.6	0		17	100.0
20代	304	85.6	25	7.0	26	7.3	355	100.0
30代	641	90.7	43	6.1	23	3.3	707	100.0
40代	589	88.6	48	7.2	28	4.2	665	100.0
50代	395	88.0	39	8.7	15	3.3	449	100.0
60代	15	14.6	83	80.6	5	4.9	103	100.0
白紙	10	76.9	1	7.7	2	15.4	13	100.0
合計	1968	85.2	242	10.5	99	4.3	2309	100.0

調査結果

問2－雇用形態別

	現在いる		過去にいた		いない		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
正社員	320	16.3	259	13.2	1393	70.8	0		1972	100.2
正社員以外	42	17.4	37	15.3	163	67.4	0		242	100.0
白紙	17	17.2	6	6.1	74	74.7	2		99	100.0
合計	379	16.4	302		1630		2		2313	100.2

問2－企業規模別

	現在いる		過去にいた		いない		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
30人未満	16	17.6	9	9.9	66	72.5	0		91	100.0
30～99人	41	20.2	26	12.8	136	67.0	0		203	100.0
100～299人	61	14.0	50	11.4	327	74.8	0		438	100.2
300～999人	40	11.7	41	12.0	260	76.2	0		341	100.0
1000人以上	187	18.0	139	13.4	714	68.9	0		1040	100.3
公務	21	18.9	15	13.5	75	67.6	0		111	100.0
白紙	13	14.6	22	24.8	52	58.4	2		89	100.0
合計	379	16.4	302	13.1	1630	70.6	2		2313	100.2

問3－ホ 介護や介護の応援上不安や負担に思う点

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	白紙	正規	正外	白紙	単身	単外	白紙
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
経済的な負担	0	55	110	123	121	24	4	372	49	16	93	319	25
精神的肉体的疲労	2	62	119	140	155	35	5	441	59	18	105	387	26
行動が拘束される	1	45	70	105	100	22	2	288	46	11	75	251	19
公的サポートの不備	1	9	22	27	54	7	0	106	10	4	21	93	6
勤務先の理解・配慮不足	0	8	22	21	17	1	0	61	7	1	13	52	4
相談できる人いない	0	3	6	8	9	1	0	24	2	1	7	18	2
その他	1	2	3	5	4	0	0	11	3	1	4	10	1
白紙	0	2	4	0	4	1	0	9	2	0	1	10	0

介護者と介護度合いとの関係

	要支援1		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		当てはまらず	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
貴方が中心に介護	11	15.1	23	20.5	12	11.1	23	13.3	17	14.5	19	22.4	0	
配偶者が中心に介護	15	20.5	32	28.6	23	21.3	37	21.4	30	25.6	18	21.2	3	
親や家族で介護	34	46.6	54	48.2	57	52.8	104	60.1	65	55.6	52	61.2	9	
親戚が中心に介護し、応援	14	19.2	19	17.0	26	24.1	31	17.9	15	12.8	11	12.9	2	
貴方が主に経済的に負担	5	6.8	7	6.3	6	5.6	15	8.7	11	9.4	12	14.1	1	
その他	6	8.2	4	3.6	7	6.5	13	7.5	13	11.1	6	7.1	2	
白紙	1	1.4	0		1		0		1		0		1	
合計	86	117.8	139	124.1	132	122.2	223	128.9	152	129.9	118	138.8	18	

問4－イ 問2で「いない」と答えた人で今後不安に思う点

	10代		20代		30代		40代		50代		60代		白紙	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
経済的負担	10	71.4	221	81.0	466	84.7	430	88.1	198	83.9	48	77.4	7	
精神的肉体的疲労	8	57.1	191	70.0	424	77.1	388	79.5	184	78.0	52	83.9	6	
行動が拘束される	5	35.7	143	52.4	306	55.6	295	60.5	128	54.2	31	50.0	4	
公的サポートの不備	6	42.9	72	26.4	131	23.8	151	30.9	82	34.7	22	35.5	2	
職場の理解・配慮不足	3	21.4	76	27.8	189	34.4	172	35.2	59	25.0	6	9.7	3	
相談できる人いない	2	14.3	29	10.6	64	11.6	62	12.7	28	11.9	6	9.7	1	
その他	0		4	1.5	6	1.1	9	1.8	3	1.3	2	3.2	1	
白紙	0		1		2	0.4	2	0.4	0		1		0	
合計	34	242.9	737	270.0	1588	288.7	1509	309.2	682	289.0	168	271.0		

/14

/273

/550

/488

/236

/62

/7

問4－ロ 問2で「いない」と答えた人、介護者になる可能性は

	20代		30代		40代		50代		60代	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
いつ介護者になってもおかしくない	16	5.9	68	12.4	86	17.6	49	20.8	14	22.6
今後10年以内には可能性が高まる	18	6.6	99	18	111	22.7	62	26.3	23	37.1
今後10年以内での可能性はない	176	64.5	309	56.2	252	51.6	121	51.3	23	37.1
介護者になる可能性はない	60	22	72	13.1	36	7.4	8	3.4	4	6.5
その他	3	1.1	7	1.3	3	0.6	2	0.8	0	
白紙	1		5		7		2		0	

問6-職場の介護応援制度利用で支障に感じること

	～30人		30人～99人		100～299人		300～999人		1000人～		公務	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
支障に感じたことない	16	17.6	18	8.9	74	16.9	56	16.4	144	13.9	15	13.5
仕事(昇進等)への影響	12	13.2	42	20.7	77	17.6	89	26.1	282	27.2	20	18.0
職場の雰囲気、忙しさ	24	26.4	70	34.5	172	39.4	134	39.3	431	41.6	34	30.6
同僚や仲間に迷惑かける	46	50.5	112	55.2	241	55.1	198	58.1	578	55.7	68	61.3
仕事を代わってくれる人ない	20	22.0	37	18.2	61	14.0	64	18.8	162	15.6	10	9.0
経済的な損失・負担	20	22.0	82	40.4	112	25.6	102	29.9	394	38.0	47	42.3
その他	0	0.0	8	3.9	10	2.3	10	2.9	27	2.6	1	0.9
白紙	11	12.1	15	7.4	26	5.9	12	3.5	29	2.8	8	7.2
	/91		/203		/437		/341		/1037		/111	

問8-介護を抱える同僚を応援したいと思うか

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	60代
	%	%	%	%	%	%	%
思う	58.8	80.0	77.1	74.1	72.4	68.9	68.9
思わない	11.8	2.3	1.0	1.2	1.6	2.9	2.9
わからない	29.4	17.7	20.9	24.2	25.8	26.2	26.2
白紙	0.0	0.0	0.8	0.5	0.2	2.9	2.9

「介護を受けている人が現在いる」と答えた人、及びその中で「貴方が中心になって介護している」と答えた人の問5以下の実態、意識の動向

問5-職場の介護応援制度は

	男性		女性		現在いる人		貴方が中心					
	人	%	人	%	人	%	人	%				
介護休暇制度	797	43.8	200	51.0	173	45.6	38	38.4				
介護休業制度	472	25.9	142	36.2	115	30.3	40	40.4				
労働時間の短縮制度	289	15.9	69	17.6	67	17.7	13	13.1				
業務での配慮規程	115	6.3	16	4.1	20	5.3	2	2.0				
在宅勤務制度	57	3.1	6	1.5	10	2.6	1	1.0				
見舞い金制度	126	6.9	20	5.1	21	5.5	2	2.0				
職場に応援制度がない	35	1.9	8	2.0	9	2.4	4	4.0				
あるかないかを知らない	737	40.5	114	29.1	133	35.1	27	27.3				
白紙	42	2.3	14	3.6	13	3.4	8	8.1				
	/1821				/379				/99			

問6-職場の介護応援制度利用で支障に感じること

	男性		女性		白紙		合計		現在いる人		貴方が中心					
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%				
支障感じたことない	273	15.0	44	11.2	14	14.6	331	14.3	54	14.2	20	20.2				
仕事(昇進等)への影響	447	24.5	72	18.4	14	14.6	533	23.1	74	19.5	15	15.2				
職場の雰囲気、忙しさ	707	38.8	149	38.0	36	37.5	892	38.6	137	36.1	35	35.4				
同僚や仲間に迷惑かける	983	54.0	268	68.4	43	44.8	1294	56.0	212	55.9	51	51.5				
仕事を代わってくれる人ない	290	15.9	59	15.1	15	15.6	364	15.8	79	20.8	17	17.2				
経済的な損失・負担	631	34.7	121	30.9	37	38.5	789	34.2	127	33.5	30	30.3				
その他	50	2.7	7	1.8	3	3.1	60	2.6	20	5.3	3	3.0				
白紙	90	4.9	19	4.8	3	3.1	112	4.9	18	4.7	7	7.1				
									/379				/99			

問7-職場で介護について相談できる人

	男性		女性		白紙		合計		現在いる人		貴方が中心					
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%				
上司	872	47.9	195	49.7	35	36.5	1102	47.7	171	45.1	46	46.5				
人事・労務担当者	366	20.1	58	14.8	12	12.5	436	18.9	64	16.9	13	13.1				
同僚	638	35.0	200	51.0	28	29.2	866	37.5	154	40.6	35	35.4				
労働組合	667	36.6	98	25.0	27	28.1	792	34.3	112	29.6	19	19.2				
その他	42	2.3	12	3.1	4	4.2	58	2.5	12	3.2	2	2.0				
いない	401	22.0	65	16.6	29	30.2	495	21.4	88	23.2	27	27.3				
白紙	19	1.0	11	2.8	2	2.1	32	1.4	9	2.4	3	3.0				
									/379				/99			

問8-介護を抱える同僚を応援したいと思うか

	男性		女性		白紙		合計		現在いる人		貴方が中心					
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%				
思う	1330	73.0	343	87.5	67	69.8	1740	75.4	289	76.3	77	77.8				
思わない	29	1.6	5	1.3	1	1.0	35	1.5	5	1.3	2	2.0				
わからない	453	24.9	41	10.5	27	28.1	521	22.6	79	20.8	19	19.2				
白紙	9	0.5	3	0.8	1	1.0	13	0.6	6	1.6	1	1.0				
									/379				/99			

問9-イ、介護休業法に定める介護休業制度について

	男性		女性		白紙		合計		現在いる人		貴方が中心					
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%				
内容まで知っている	187	10.3	52	13.3	11	11.5	250	10.8	49	12.9	12	12.1				
聞いたことはある	815	44.8	206	52.6	52	54.2	1073	46.5	183	48.3	44	44.4				
知らない	733	40.3	102	26.0	24	25.0	859	37.2	106	28.0	30	30.3				
									/379				/99			

問9-ロ、介護休暇制度について

	男性		女性		白紙		合計		現在いる人		貴方が中心					
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%				
内容まで知っている	192	10.5	45	11.5	13	13.5	250	10.8	49	12.9	12	12.1				
聞いたことはある	865	47.5	227	57.9	47	49.0	1139	49.3	199	52.5	47	47.5				
知らない	679	37.3	86	21.9	28	29.2	793	34.3	92	24.3	27	27.3				
									/379				/99			

問9-ハ、介護休業、介護休暇の対象労働者の要件について

	男性		女性		白紙		合計		現在いる人		貴方が中心					
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%				
内容まで知っている	91	5.0	18	4.6	2	2.1	111	4.8	26	6.9	8	8.1				
聞いたことはある	420	23.1	98	25.0	35	36.5	553	23.9	91	25.0	27	27.3				
知らない	1214	66.7	237	60.5	50	52.1	1501	65.0	219	57.8	48	48.5				
									/379				/99			

問9-二、介護休業給付金について

	男性		女性		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
内容まで知っている	87	4.8	22	5.6	3	3.1	112	4.9
聞いたことはある	451	24.8	91	23.2	30	31.3	572	24.8
知らない	1187	65.2	240	61.2	55	57.3	1482	64.2

現在いる人		貴方が中心	
人	%	人	%
22	5.8	8	8.1
103	27.2	17	17.2
211	55.7	58	58.6

問10-イ、介護にとって必要だと思う点(施設について)

	男性		女性		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
老人ホームなど公的施設	1179	64.7	280	71.4	64	66.7	1523	66.0
入所費用の本人負担の軽減	1419	77.9	310	79.1	74	77.1	1803	78.1
施設の内容、運営の改善	670	36.8	162	41.3	34	35.4	866	37.5
職員の増員、技術向上	689	37.8	173	44.1	32	33.3	894	38.7
その他	18	1.0	6	1.5	3	3.1	27	1.2

現在いる人		貴方が中心	
人	%	人	%
255	67.3	70	70.7
285	75.2	82	82.8
159	42.0	38	38.4
163	43.0	38	38.4
7	1.8	3	3.0

問10-ロ、介護にとって必要だと思う点(在宅介護の場合)

	男性		女性		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
介護保険制度の内容充実	1252	68.8	281	71.7	79	82.3	1612	69.8
勤務先における支援制度	1003	55.1	289	73.7	49	51.0	1290	55.9
働きながら介護に関わる人への介護サービスの充実	1224	67.2	317	80.9	62	64.6	1633	69.4
家族・親族の介護の義務化	204	11.2	34	8.7	11	11.5	249	10.8
住宅条件の改善	264	14.5	61	15.6	10	10.4	335	14.5
その他	20	1.1	3	0.8	2	2.1	25	1.1

現在いる人		貴方が中心	
人	%	人	%
265	69.9	71	71.7
197	52.0	48	48.5
259	68.3	83	83.8
29	7.7	8	8.1
75	19.8	23	23.2
9	2.4	3	3.0

問10-ハ、介護にとって必要だと思う点(情報・知識)

	男性		女性		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
介護サービスの種類・内容、施設など周知	1506	82.7	316	80.6	78	81.3	1900	82.3
遠距離介護に役立つ知識・情報	652	35.8	154	39.3	28	29.2	834	36.1
介護実習の機会の増設	449	24.7	86	21.9	19	19.8	554	24.0
介護者同士の情報交換の場	490	26.9	135	34.4	29	30.2	654	28.3
その他	14	0.8	2	0.5	0	0	16	0.7

問10-ニ、介護にとって必要だと思う点(職場の応援制度)

	男性		女性		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
時間単位でとれる介護休暇制度	724	39.8	206	52.6	39	40.6	969	42.0
介護休業・休職制度	766	42.1	169	43.1	37	38.5	972	42.1
労働時間の短縮制度	376	20.6	119	30.4	25	26.0	520	22.5
業務での配慮規程	439	24.1	90	23.0	17	17.7	546	23.6
在宅勤務制度	205	11.3	36	9.2	13	13.5	253	11.0
休暇期間の限度日数拡大	305	16.7	81	20.7	12	12.5	399	17.3
賃金の保障	674	37.0	135	34.4	37	38.5	846	36.6
社会保険料の本人負担免除	560	30.8	83	21.2	30	31.3	673	29.1
見舞い金制度	130	7.1	21	5.4	6	6.3	157	6.8
その他あれば良いと思われる制度	11	0.6	3	0.8	1	1.0	15	0.6
わからない	112	6.2	11	2.8	7	7.3	131	5.7
ない	22	1.2	1	0.3	0	0	23	1.0

現在いる人		貴方が中心	
人	%	人	%
165	43.5	45	45.5
146	38.5	40	40.4
72	19.0	24	24.2
81	21.4	24	24.2
39	10.3	6	6.1
63	16.6	14	14.1
131	34.6	30	30.3
103	27.2	25	25.3
23	6.1	7	7.1
4	1.1	2	2.0
23	6.1	4	4.0
4	1.1	2	2.0

問10-ホ、介護にとって必要だと思う点(職場の同僚による支援)

	男性		女性		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
仕事の分担	763	41.9	168	42.9	34	35.4	965	41.8
休暇取得などに対する理解	1081	59.4	244	62.2	53	55.2	1378	59.7
気持ちの理解	693	38.1	167	42.6	31	32.3	891	38.6

問10-ヘ、介護にとって必要だと思う点(国・地方自治体に求めること)

	男性		女性		白紙		合計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
介護休業期間の拡大	796	43.7	175	44.6	44	45.8	1015	44.0
介護休暇期間の拡大	683	37.5	170	43.4	36	37.5	889	38.5
介護休業・休暇の対象労働者の拡大	364	20.0	71	18.1	23	24.0	458	19.8
介護休業給付金の増額	827	45.4	157	40.1	41	42.7	1025	44.4
職場における国の制度の利用促進	539	29.6	128	32.7	23	24.0	690	29.9
介護サービス内容等の情報周知	413	22.7	98	25.0	25	26.0	536	23.2
特になし	38	2.1	4	1.0	0	0.0	42	1.8
わからない	163	9.0	21	5.4	12	12.5	196	8.5
その他	11	0.6	4	1.0	0	0.0	15	0.6

現在いる人		貴方が中心	
人	%	人	%
147	38.8	39	39.4
135	35.6	37	37.4
55	14.5	22	22.2
167	44.1	37	37.4
191	50.4	24	24.2
111	29.3	28	28.3
5	1.3	4	4.0
26	6.9	6	6.1
7	1.8	1	1.0